

戦争加害の歴史の概要 万人坑 南京大虐殺 重慶無差別爆撃

731部隊 毒ガス兵器 満洲に集団移住させられた朝鮮人

マレー侵略 朝鮮人・中国人強制連行 日本軍「慰安婦」朝鮮植民地征服戦争

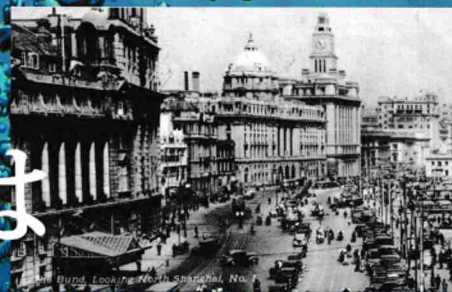
沖縄戦と棄民化された人々 ドイツと日本、戦後処理の違い

【第9回】 知ることで未来が見える

戦争の加害パネル展

【特集展示】

上海で 日本軍は 何を



謀略・市街戦・特務機関の暗躍・南京事件の前兆

横浜市は、50年前から上海市と姉妹都市協定を結んでいます。しかし戦前、日本軍が上海で何ををしたのか、わたしたちはほとんど知らされていません。

「租界」とは何か、何が問題か、「第1次上海事変」「第2次上海事変」ともに日本軍の謀略が引き金になったこと、日本軍の甘い見通しで始めた戦争で、甚大な被害を自軍にも与えたこと、もちろん中国の人々が大きな被害を被ったこと、にもかかわらず日本社会は戦争に浮かれていたこと、侵略＝加害側であるにもかかわらず被害者であるかのようなアジェンダ、戦意を煽った新聞報道、略奪、捕虜殺害、民間人殺害が南京より前に上海であったこと、大量の餓死者を生んだ「貨幣戦」、アヘン取引や暗殺などで暗躍した日本軍の「特務機関」…多面的に紹介します。

2024年4月27日(土)～5月5日(日) 10:00～19:00

かながわ県民センター 1階展示室 ●横浜駅西口5分

4月27日(土) 14時～映画「南京!南京!」/ 18時～「ぼくたちは見た ガザ・サム二家の子どもたち」上映会

映画資料代800円(800円で両方の映画が鑑賞できます。詳しくはウラ面をご参照ください)



入場無料

主催：記憶の継承を進める神奈川の会
電話 ● 090-7405-4276 090-8721-3222
メール ● hiromatu914@yahoo.co.jp

後援：神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、毎日新聞横浜支局、tvk 協賛：週刊金曜日



私たち人類は過去を見つめることを通して未来を創ってきました。日本が行った戦争で一体何が行われたのかを知り、継承していくことは大変重要なことと考えております。触れたくない過去とお考えの方もいるかと思いますが、避けて通ることは出来ません。そこで、2016年に、南京大虐殺・日本軍「慰安婦」・731部隊・毒ガス戦・沖縄戦について関するパネル展示を、その後、展示項目を加えて、毎年行ってきました。今年も継続することの大切さから、第9回パネル展を実施いたします。

主なパネル展示 DVD上映もあります (無料) 内容/タイムテーブルは会場にてご確認ください。

万人坑

満州事変の1年後、撫順炭鉱を抗日ゲリラが襲い、数人の犠牲者がた。守備に失敗した軍は、付近の平頂山の町を襲い、老若男女約3千人を虐殺した。最初の日本軍の虐殺事件である。以降、軍だけでなく、企業も過剰労働と過少食糧で大量の中国人の命を奪い、富を奪って巨大な利益を得た。

重慶無差別爆撃

日中戦争期の1938年～44年にかけて、当時中国の臨時首都であった日中国重慶市に対し日本の陸海軍航空隊が、抗戦継続意志の破壊を目指して行った本格的な戦略爆撃。特に1939年～41年の作戦では爆撃機の集中・大量使用と焼夷弾攻撃を特徴とし、都市無差別爆撃の戦史に先鞭をつけた。

731部隊

日本陸軍は中国東北地方の平房に731部隊を設置し、人体実験・細菌散布実験を繰り返して細菌兵器を開発した。そして寧波や常德等の中国の都市で国際法違反の細菌戦を行い、中国人民に多大な被害を与えた。戦後、731部隊員は米国に実験データを渡し、全員が戦犯免責になり、医学界に復帰した。

マレー侵略

アジア太平洋戦争は、マレーシア・コタバルから始まった。真珠湾より約1時間早く、「島の人口を半分にしようと思っている。」(辻信吾参謀)の言葉通り。住民大量虐殺(「シンガポール大検証」など)や、5000万海峡ドルの強奪(華納金)、岡 9420 部隊 (731 部隊支隊) 設置など暴虐の限りを尽くした。

日本軍「慰安婦」

満州事変、日中全面戦争、アジア太平洋戦争、15年にわたる戦争の中で、日本軍は朝鮮半島などの植民地や占領した中国・東南アジアの女性を強制的に日本兵士と性行為をさせる「慰安所」を作りました。これまでの調査・研究から明らかとなった、日本軍「慰安婦」制度の仕組みと実態を展示します。

ドイツと日本、戦後処理の違い

日本は過去何回も謝罪していると言う主張がある。これは被害者から見て納得できているのだろうか？ 過去の植民地主義について、何処の国も謝罪・補償をしていないとの主張もある。これは本当だろうか？ 他国、特にドイツが日本と比較されることが多いが、どう違うのだろうか？ これらの問題を検討する。

南京大虐殺

南京大虐殺事件はあったのか、なかったのか。一度に何十万人も殺されたのか、さまざまな事件の集積か。なぜ殺戮・掠奪・放火・性的暴行が発生したのか、発生の背景は。悪魔でも鬼でもなく、兵役に就く前は「普通の暮らし」をしていた日本人が、なぜそのような行為に至ったのか。Q&A形式で展示します。

毒ガス兵器

日中戦争期、中国の徐州・武漢などの中国各地で、日本軍は、国際法違反の毒ガス戦を行い、中国人民の多大な被害を与えた。また敗戦直前に、残った毒ガス弾を中国に運棄したために、戦後、それによる毒ガス被害が多発している。1997年化学兵器禁止条約発効後、日本は、その処理にあっている。

「満洲」に集団移住させられた朝鮮人

「満洲」に渡った朝鮮人移民について、膨大な数の直接体験者の聞き取りをし、写真を撮ってきた李光平(リガンピョン/中国吉林省延边朝鮮族自治州の歴史研究者・写真撮影家)さんの表現には、移民たちの生活、葛藤、抗いなどが生々しく記録されています。

朝鮮人・中国人強制連行

36年に及ぶ植民地政策のもと、朝鮮人を安価な労働力として戦時下で強制連行し、また中国人も強制的に連行し、鉱業、荷役業、国防土木建設業などで用いるという名の強制労働で酷使しました。その過酷な労働現場の実態をパネル展示します。

沖縄戦と棄民化された人々の記憶

琉球処分という名の植民地化から始まり、戦中は「国体護持」「本土決戦」「捨て石」にされた沖縄戦の実相を「沖縄戦新聞」で振り返り、戦後は「天皇メッセージ」で米軍政下におかれ、「本土復帰」後も日米の「要石」にされている実態、棄民化されても「自己決定権」を

ミニ講演(パネル展会場内、無料)

5月1日(水) 14:00～16:00

後藤周さん講演

「それは丘の上から始まった」(関東大震災時朝鮮人虐殺)

5月3日(金) 14:00～16:00

特集展示「上海で日本軍は何を」制作メンバーによる解説

映画「南京！南京！」4月27日(土) 14時～(132分)

陸川(ルー・チュワン)監督の中国映画(2009年)。日本では映画館上映はなく、何度か自主上映が行なわれているのみの作品。ドキュメンタリーではなく、史実を基にした創作ドラマですが、加害行為に葛藤する日本軍兵士を登場させたことで中国では議論を呼びました。女性にとつての「侵略される体験」も大きなテーマとして描かれています。

映画「ぼくたちは見た ガザ・サム二家の子どもたち」4月27日(土) 18時～(87分)

吉原みずえ監督作品。2008～09年、イスラエルによるパレスチナ・ガザへの攻撃で1400人が殺害、うち300人が子どもだったとされます。この映画はナレーションがなく、親やきょうだいを失った子どもたちのインタビューで構成されます。「侵略された体験」とはどのような体験か、「南京！南京！」と併せて見ていただくと幸いです。

民族排外主義と差別こそが、戦争への道。